

- ◆実践校名 守口市立八雲中学校, 大東市立深野中学校, 門真市立第七中学校, 交野市立第四中学校
- ◆主題名 法やきまりの意識 道徳の内容 C- 遵法精神、公德心
- ◆ねらい よりよい集団を作るために、自分たちでルールを考え、守る子どもたちの姿を養う。

◎ 中心的な発問

「それは……と、僕は口を出そうとしてやめました。」とありますが、それはなぜですか。

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点
導入	◎「きまりやルールを守る」ことについて考える。	みんなの周りがある「きまり」や「ルール」は、何のためにあるのかな。 ・不公平にならないように。 ・楽しくすごすため。	・みんなで考える。 ・様々な「きまり」や「ルール」があることをおさえる。
展開	◎教師の範読を聞きながら本文を読む。 ○内容を確認する。	誰の視点で読んでいくか(道徳的に最も大きく変容した人物): 僕 助言者: 潤一とその遊び仲間 確認事項: 缶ケリを見ている「僕」の気持ちをおさえる。 ・懐かしい ・自分の子どもの頃と変わらないなあ。 ・遊びに夢中になっていてかわいいな。	・範読を静かに聞かせる。
	① 子どもたちの関係が悪くなりそうなことを心配する「僕」の気持ちを理解する。  中心発問 「僕」が子どもたちのルール作りに口をはさまなかった理由を考える。	「僕」が別の遊びをした方がいいよとアドバイスしようとしたのは、どんな気持ちからか。 ・ずっと鬼をやっているケンタがかわいそうだ。 ・体力に差があるので不公平だ。 ・缶ケリ以外の遊びを教えてやろう。	・自分の子ども時代を思い出し、微笑ましく見ている「僕」を想像させる。
	② 「僕」が子どもたちから学んだことを考える。	「それは……と、僕は口を出そうとしてやめました。」とありますが、それはなぜですか。 ・子どもたちが決めたことだから。 ・遊んでいる子どもたちが楽しそうだから。 ・自分が口出しするのも変だと思ったから。 ・もし上手いかななくても、また自分たちで新しいルールを考えるとと思ったから。 ・自分たちが決めたルールに納得して遊んでいることに意義があるから。	① 子どもたちを心配している「僕」に気持ちを考えさせる。  <評価> よりよい集団や社会を形成するために、構成員の相互理解を深めるとともに、法やルールを遵守していくことの大切さを学ぶことができたか。 (評価方法) ワークシート、発表(即時的)、発表、感想、アンケート <評価をいかした支援> 学級通信によるフィードバック、生徒の発言に対する切り返しや意見を聞くことで、考えを深める。
終末	◎今日の感想を書く。	今日の授業で感じたことや考えたことを書きましよう。	○今回の授業を通して考えたことを振り返らせる。

## ◆研究のまとめ

### ○授業実践について、チームとしてのまとめ

#### ●成果

- ・「法やルール」を主体的に考えることができるようになった。
- ・「個人」から「よりよい集団」のあり方へ考えが及ぶようになった。
- ・「法やルール」が「平和」や「平等」を守るためにあると考えられるようになった。
- ・ワークシートの発表や、教師による板書によって、他生徒の意見を共有し、生徒個々が「法やルール」についてより深く考えるようになった。

#### ●課題

- ・教材の内容上、「法やルールの意義」に加えて、「相互理解」や「よりよい集団づくり」という学習指導要領における4つの視点の内容項目にまたがって取り扱う必要があることも考えると、当初のねらいを深めるための発問の工夫が必要である。

### ○道徳の評価についての提言

#### ●評価

- ・生徒の道徳的心情は、外面からはとらえ難い面がある。
- ・学校教育活動全体通じ、道徳性を養うのが道徳教育の目標なので、授業だけで評価を考えるのは難しい面がある。
- ・学校教育活動全体を通して、評価していく。

#### ●観察・継続・蓄積

- ・授業中の生徒の発言や使用したワークシート、感想文、アンケートを参考にする。
- ・授業で資料を読んで考えた1時間だけでは、なかなか生徒の変化がつかめないで、普段から生徒の様子で気が付いたことがあれば、記録に残し蓄積していく。

## 【各校での実践の記録】

### ◆実施学年（2年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・ルールは誰のためにあるのか、何のためにあるのかにもっと迫りたかった。  
「自分たちで決めたルールの方が楽しい」「ルールは自分たちが楽しめるためにある」という意見が多かったが、なぜそうなるのかに迫る。「集団がよりよい集団としてまとまるため」という考えを導きたかった。
- ・一旦決めたルールでも、何か不都合なことが生じれば変えていけるという考えを持つ生徒が若干出てきた。→自分たちでルールは変えていける。そこに主体性があるという考えを持たせる。
- ・「自分たちで決めたルールだから守る」という気持ちを持てた生徒もいた。
- ・決まったルールには納得することが大切。そこに向かって話し合ったり、不都合があれば考え直す。そこに気付いた生徒もいた。

#### ○成果と課題

- ・「ルールは自分たちが楽しむためにある」と感じた生徒が多かったが、なぜ楽しめるのかを考えさせたい。そこに集団生活をよりよく過ごすキーがある。
- ・今回の授業の後に宿泊学習の準備が始まったが、そこで生徒主体で動かす場面を多く設定した。自分たちでルールを決め、守ろうと動くことを通して学年としてのつながりが幾分か強くなった。
- ・ただ今回の授業と宿泊学習だけで日常生活でルールの意義を以前よりも意識して過ごしている生徒が果たしてどの程度いるのかは未知数。様々な場面でルールの意義を考える機会を作りたい。

## ◆実施学年（1年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

##### ※生徒の意見

- ①ルールは誰のためにあるのか、に関する意見
  - ・みんなで決めたルールだから守るし、うまくいかなくてもまた自分たちで話し合える。
  - ・皆が納得し、楽しめるルールを作ったことがすばらしい。
  - ・平等な、偏っていないルールを自分たちで考えたことがすばらしい。
- ②不都合が生じたルールの改変に関する意見
  - ・自分たちでルールを変えるとき、楽しそうだった。
  - ・誰かが困っていたら、みんなで話し合っただうやったらみんなが楽しくできるか考えることが大切だ。
  - ・こういう問題はこれからもある。失敗しても大丈夫。また会議を開いて話し合うことが大切。
- ③よりよい集団に関する意見
  - ・みんなが意見を出せる空気になるのがすごい。
  - ・みんなで考えたらいいものができるし、団結力が深まる。

##### ※考察

- ・よりよい集団のあり方について考えられる生徒は多かった。
- ・法やルールの遵守まで考えの及ぶ生徒が少なかったため、通信等を利用して考える機会を持たせたい。

#### ○成果と課題

- ・潤一のリーダーとしての資質のすばらしさや、年下の子どもを思いやるやさしさ、自分の意見がきちんと言える集団の良さといった事柄に注目する生徒も多かった。自分の所属する集団をよりよくしたいという気持ちの表れといえる。
- ・ルールを守ることがよりよい集団作りに欠かせないものだという考えに及ぶ生徒が少なかったため、中心発問を深める工夫が必要だと感じた。
- ・この資料での生徒アンケート「新しい発見があった」と答えた生徒の割合は52%だった。

実践校名(大東市立深野中学校)

## ◆実施学年（1年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・ワークシートに記入させる際、あまり発問をかみ砕くと違う意味でとらえたりしかねないので、同じ言葉で発問を繰り返し、余計なことは言わないようにした。  
→ワークシートを見ると、ひとりひとりさまざまな意見を書いていることがわかった。一般的な意見や、個人の内面にせまるような意見もあり、もう少し時間をとれば、さらに興味深い意見も出たのではないかと思う。
- ・発問の答えを何人が答えさせ、黒板に板書した。  
→クラスの他の生徒の意見を全員が聞くことによって、自分以外の生徒がさまざまな意見を持っていることが分かった。他の生徒の意見と違う意見をもつ生徒が、積極的に自分の意見を「僕はこう思っているねん。」と発言する場面もあり、一人一人違う意見を持ってもいいという理解へとつながってきている。
- ・ワークシートに書かれた自分の意見を持ちよって班での話し合いをさせた。話し合いの前に、話し合う際のルールを伝えた。  
→司会役の班長が中心となって、自分たちの意見の交流ができた。思ったよりそれぞれの班が活発に意見交流でき、その交流を経て、さらに意見を出し合う班が多かった。班での交流のあと、全体への発表に移ったが、それぞれの班で意見をまとめたり、すべて伝えたりと、発表のスタイルはさまざまだったが、全員が、真剣にお互いの思いを聞くことができた。

#### ○成果と課題

- ・ワークシートを見ると、「僕」の心の動きをつかみ、その思いに寄り添える生徒が多かった。
- ・こちら側がランダムにあてた生徒が発問の答えとなる意見を発表する際、自分の意見をきちんと言え、また、発言した生徒に対して聞いている生徒が拍手をして応えることができた。
- ・問われていることが理解できず、こちらの想定している意見とは全く違った意見を書く生徒がおり、発問のしかたの工夫が必要である。

### ◆評価に用いた資料

- ・ワークシート
- ・班活動の様子

### ◆参考資料

- ・「大切なところ」を見つめ直して

# 「缶ケリ」ワークシート

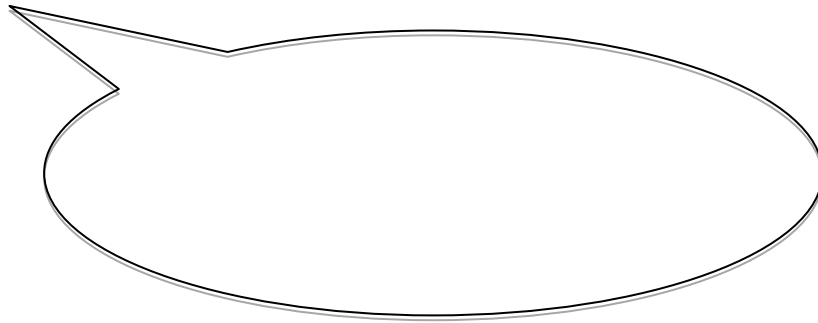
年 組

---

\* 「僕」の心の動きをとらえよう・・・このとき、「僕」は何を思っていたのだろう

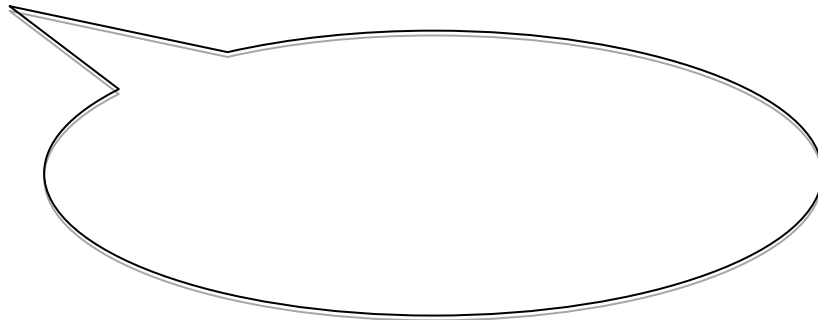
## 発問①

「僕」が別の遊びをした方がいいよとアドバイスしようとしたのは、どんな気持ちからですか。



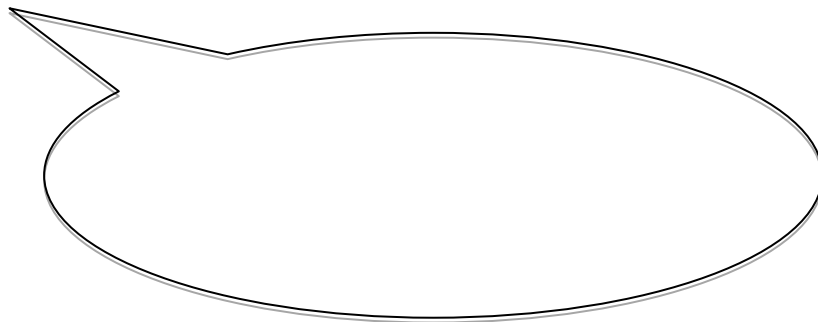
## 発問②

「それは・・・と僕は口を出そうとしてやめました。」とありますが、それはなぜですか。

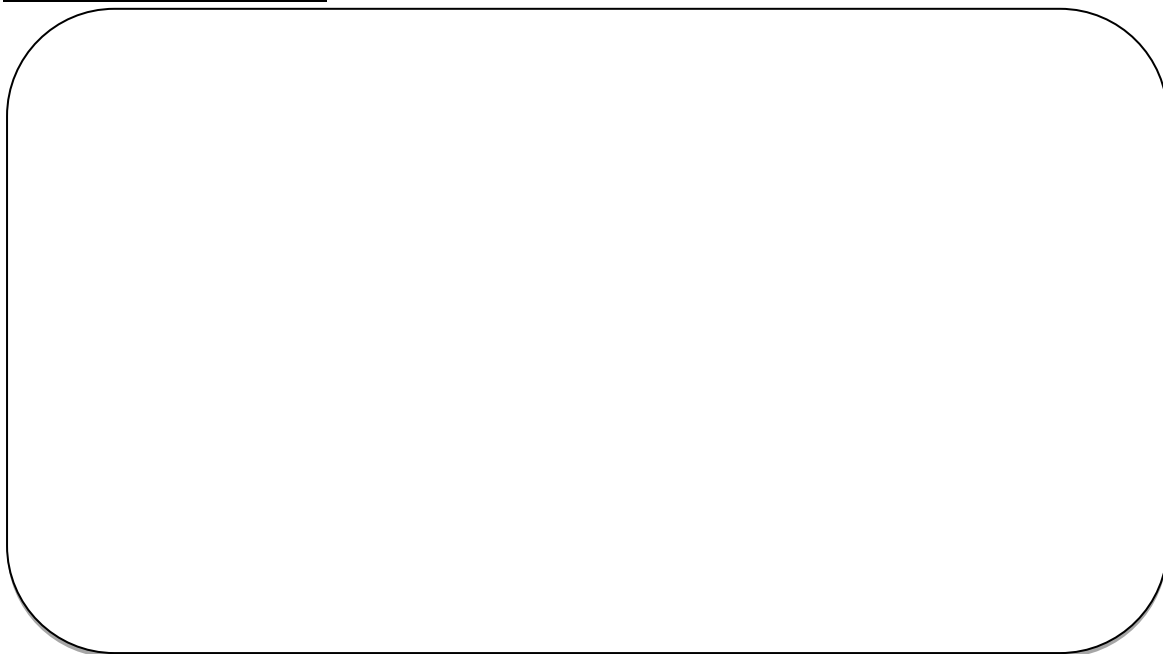


## 発問③


公園を吹き抜ける初夏の風がとてもさわやかに感じながら、僕は何を考えていたんだろう。



みんなの意見を書こう



思ったことや感想 など



## ◆実施学年（2年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・授業の中でワークシートに記入させる。
- ・設問ごとに発表させ、教師が板書する。
- ・「相互理解」「法やルールの遵守」が大切であることに気づく様に、物語の読み取り方を指導する。
- ・授業後、ワークシートの集約を行い、授業を通じて生徒の「気づき」がどのように変化していったかを考察する。

#### ○成果と課題

- ・教師が期待している以上に、生徒は「法やルールの遵守」は大切だと感じている。  
（ワークシートの最初と最後に同じ質問を設定し、回答の変化で読み取る）
- ・集約した結果を、学級通信などで生徒にフィードバックしていく。
- ・クラスでの話し合いや決めごとで、今回の授業の影響を読み取る。
- ・生徒個々の気づきや思考の発達を、クラス全体にフィードバックしていける工夫を行う。  
（例えば、その後の様子を学級通信に掲載する。より発展的な道徳教材を展開する）

## ◆評価に用いた資料サンプル

### 別添資料

### ◆参考資料

「こころの再生」府民運動 中学校「大切なこころ」を見つめ直して（大阪府教育委員会編）  
P, 28～33 ⑤缶ケリ

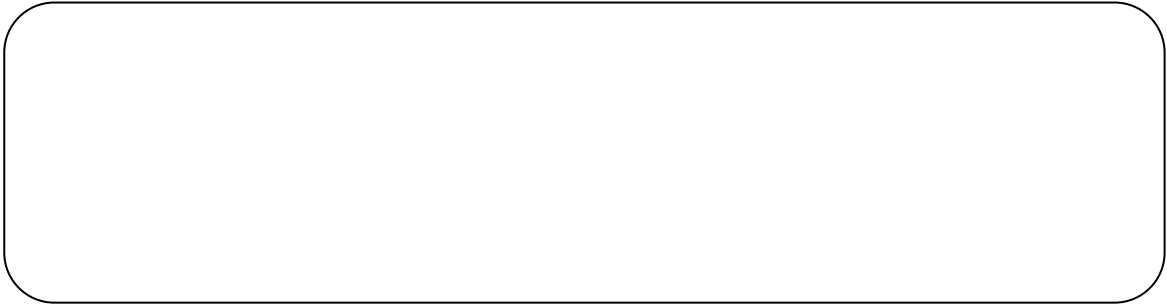


## 第2学年 道徳「缶ケリ」ワークシート

組 番 氏名

---

Q 1 あなたは、世の中にある『ルール』は、何のためにあると考えていますか？



Q 2 「僕」のおいっ子の潤一が、最初にみんなに缶けりのルールを説明しているのを、「僕」はどんな気持ちで眺めていたでしょう？



Q 3 あなたはどのような『ルール』を作れば、小さい子と大きい子が一緒に遊べる缶ケリができると思いますか？

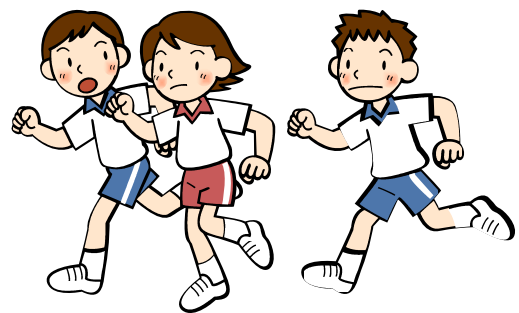


Q 4 子どもたちが缶ケリの新しいルールを決めた時、「僕」は口を出そうとしてやめました。なぜだと思いますか？

Blank rounded rectangular box for answer to Q4.

Q 5 『ルール』は何のために、誰のためにあるのでしょうか？

Blank rounded rectangular box for answer to Q5.



## 第2学年 道徳「缶ケリ」ワークシート 集約

**Q 1** あなたは、世の中にある『ルール』は、何のためにあると考えていますか？

- ・みんなが仲良くするため。女
- ・人々が嫌な思いをせず、平和にするため。女
- ・みんなが気持ちよく過ごすため。男
- ・世の中を平和にするため。男
- ・皆が平等であるため。男
- ・もめごとなど無いように、みんな平等にするため。女
- ・暮らしや生活を守るため。男
- ・自由すぎると何もできなくなるから。男
- ・ケンカ・もめごとが起きないようにするため。女
- ・嫌な思いをする人を減らすため。女
- ・生活などを守るため。女
- ・あやふやなことを決めるため。男
- ・国が崩壊しないように。女
- ・平和に暮らすため。女
- ・みんなが気持ちよく毎日を過ごすためにある。女
- ・みんなが平等に日常生活をおくるため。男
- ・世の中を良くするため。男
- ・人々を守るため。男
- ・安全を守るため。女
- ・人々が仲が悪くならないようにするため。女
- ・人としての理性を壊さないようにするため。女
- ・みんなが安心して暮らすため。男
- ・人々が人として悪い方向に向かわないようにするため。男
- ・良いことと悪いことを区別するため。男
- ・人々が楽しく過ごせるようにするため。女
- ・人々の不公平を無くすため。男
- ・犯罪者が出てこないようにするため。女
- ・皆を平等な立場にするため。女
- ・皆が自分勝手なことをしないようにするため。女
- ・暮らしやすい社会にするため。女

**Q 2** 「僕」のおいっ子の潤一が、最初にみんなに缶けりのルールを説明しているのを、  
「僕」はどんな気持ちで眺めていたでしょう？

- ・「えらいな」と思っていた。女
- ・ルールも変わってなくて、懐かしいなと思っていた。女
- ・大きくなったなと思っていた。女
- ・楽しそうだなと思っていた。女
- ・ちゃんと皆にルールの説明ができて立派だと思った。女
- ・もう一度自分もやってみたいと思う気持ち。男
- ・頼もしい。気配りができていて感心した。女
- ・懐かしい遊びをしているなと眺めていた。女
- ・本当に潤一だけで進めていくルールで良いのかなと疑問に思う気持ち。女
- ・自分の甥っ子がリーダー的な存在で頼もしいと思った。女
- ・子どもの頃を思い出して懐かしい気持ち。女
- ・ルールをきちんと決めてするのは良いことだと思う気持ち。女
- ・皆で理解してから始めると、ケンカが起きにくいだらうから偉いなという気持ち。女

### Q 3 あなたはどのような『ルール』を作れば、小さい子と大きい子が一緒に遊べる

缶ケリができると思いますか？

- ・小さい子のことを考えて、大きい子にはハンディキャップを持たせる。女  
(例 片足で走る 四つん這いになる スキップをして移動する 走らない うさぎ跳び)
- ・鬼は毎回違う人がやる。
- ・範囲を狭くする。
- ・小さい子の場合鬼を2人にする。
- ・小さい子が鬼をするときは、缶を動かせる(運べる)。
- ・鬼は毎回じゃんけんで決める
- ・小さい子と大きい子がペアを組む
- ・小さい子は3回鬼が続いたら、鬼以外でジャンケンをして次の鬼を決める。
- ・小さい子は鬼にならない。
- ・小さい子が鬼の時は、隠れられる範囲を狭くする。
- ・小さい子は複数で鬼をする。
- ・大きい子は手加減をする。

### Q 4 子どもたちが缶ケリの新しいルールを決めた時、「僕」は口を出そうとして

やめました。なぜだと思いますか？

- ・子ども達がみんな納得しているようだから。
- ・主人公が口出ししてもう一回考えるより、やってみてダメだったらみんなで考え直してみたら良いと思ったから。
- ・一度やってみてダメならまた「緊急会議」で自分たちで考えればよいと思ったから。
- ・彼らなりのルールだと思ったから。
- ・潤一が、自分よりも良いルールを作りそうだったから。
- ・子ども達が楽しそうだったから、ムードを壊さないように。
- ・子ども達だけで解決できるなら、大人が口を出して解決するよりもすばらしいことだから。
- ・子ども達が新しいルールを考えて楽しもうとしていたから。
- ・子ども達は互いに意見を出し合い、知識や理解を深めているのだから、「僕」が意見を言うのは子どものためにならないと思ったから。
- ・子ども達が瞳をキラキラさせていたから。
- ・子ども達が「緊急会議」でどんな事をルールとして決めるかが気になり、見守りたくなつたから。
- ・大人が提案するよりも、子ども達でルールを作った方が子どもの成長につながるから。
- ・子ども達が意見を出し合って導き出したルールなので、それでも不平等だったらまた考えれば良いと思ったから。
- ・難しいルールでうまくいかないだろうと思ったが、全員で考え、全員が納得しているのだから、これで良いんだと思ったから。

### Q 5 『ルール』は何のために、誰のためにあるのでしょうか？

- ・自分や世の中にいる全ての人が、仲良く平和に楽しく過ごせるようにするため。
- ・自分勝手な人が出てこないようにするため。
- ・みんなが気持ちよく過ごすために、みんなのためにある。
- ・平等に誰もが楽しめるように。
- ・みんなが満足できるようにするため。
- ・あやふやな部分をはっきりさせるため。
- ・みんなの生活を守るため。
- ・みんなが理解し納得し、公平になるように定めてある。
- ・世界中の全ての人が平等に平和に暮らせるようにするためにある。
- ・ルールがあった方が、みんなに社会のしくみが分かりやすいから。
- ・人と人とのつながりを大切にするため。
- ・人間の暮らしを守るため。
- ・ルールを使う人たちが納得して平和的に問題を解決するため。
- ・人々が争わないようにするため。